

つめたい風よ吹け—

怒り燃やせつき進もう

迎春



上の絵は、長く絵を描き続けている仲間一姉川良雄さん(職場27分会。港務所)に描いてもらった素晴らしい作品です。酉(とり)年を迎えて、吹き荒れる冷たい風のなかを、願いを怒りに変えて突きすすもうとする、三池の気組

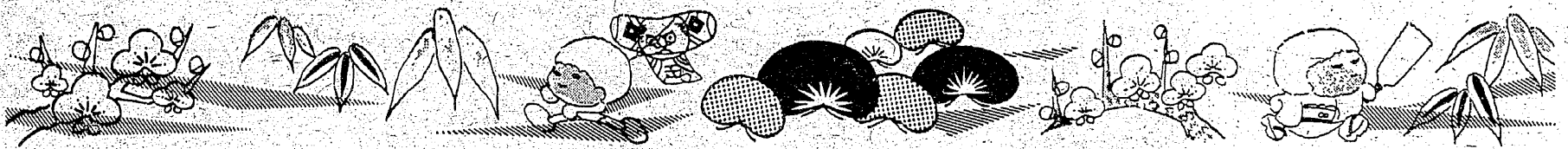
みをよく表わしているではありませんか。姉川さんは、今は大牟田総合美術展の絵画(油絵)の部の審査員の1人です。今後、いつそのご活躍を期待しようではありませんか。そして前進しましょう。



発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話(53)3033番
(53)3034番
編集兼
発行人 甲斐俊久
半年間1,200円 送料共

全国の仲間の皆さん——
明けましておめでとーございませう。
今年もしっかりがんばりませう。
一九八一年元旦

三池炭鉱労働組合



三十二年

鶏(とり)

職場十四分会(三川)
杉本一男

最初に入った 四軒長屋。

裏の 濡縁の下に

金網を 張り

鶏を二羽 飼った。

おなじ炭鉱社宅で

あちこちに 飼われていた。

枯れ草や木片を 焚く。

隠れるように

一回半 首をひねる。

毛をむしる。

骨まで 包丁がとどく。

したたる血

毛の花が咲いた。

血溜り のこり火は 穴へ。

もともと 食うためのもの。

とりなんぞ

今は、プロイラーで

たらふく食える。

うまくない。といっても

とりは 鶏。

三池のたたかひの前年。

「皇太子と正田美智子が結婚」

おれの結婚も かげが薄かった。

「指名勧告状」が 舞う ありさま。

ヘリコプターの音

ちぎれ雲の ながれ

つめたい風。

おれは、ねがいを

鶏冠と いっしょに

穴に 埋めた。